

聖書日課 『からし種』 2018. 6. 10～ 6.17

<p>10日 (日)</p> <p>ヨエル 2章</p>	<p>「今こそ、心からわたしに立ち帰れ。断食し、泣き悲しんで。衣を引き裂くのではなく、お前たちの心を引き裂け。」(12-13 節)。神の前に何を泣き悲しむべきなのかを理解できていない私たち。その私たちのために主イエスは代わって泣き悲しまれた (ルカ 19:41)。主イエスが涙された意味を今日、教えてください。</p>
<p>11日 (月)</p> <p>ヨエル 3章</p>	<p>「その後、わたしはすべての人にわが霊を注ぐ。…奴隷となっている男女にもわが霊を注ぐ」(1-2 節)。主イエスの十字架に自らの信仰を砕かれた弟子たちは、神の聖霊が「すべての人」「奴隷の男女」に注がれるビジョンを与えられて世界に出かけて行った。主よ、聖霊が与えるビジョンに生きる者としてください。</p>
<p>12日 (火)</p> <p>ヨエル 4章</p>	<p>「お前たちの鋤を剣に、鎌を槍に打ち直せ。」(10 節)。イザヤの「平和預言」(剣を鋤に、槍を鎌に打ち直す)(2:2) とは正反対の言葉に戸惑う。ヨエル4章には「復讐」という言葉が六回も出てくる。「復讐預言」を乗り越え、十字架上で「父よ、彼らをお赦してください」と祈られた主イエスの祈りの深さを覚えたい。</p>
<p>13日 (水)</p> <p>アモス 1章</p>	<p>「主はシオンからほえたけり、エルサレムから声をとどろかされる」(2節)。羊飼いのアモスが預言者として主の言葉を託される。彼は草原でほえたけるライオンの姿に、「わたしは決して赦さない」という主なる神の憤りを見たのだろうか。今日の世界で主なる神はどのような言葉をとどろかせておられるのか。</p>

メール配信登録メール senfkorn.obc@gmail.com 大井バプテスト教会

メール配信希望の方は名前とアドレスを明記の上、上記のアドレスまで

聖書日課 『からし種』 2018. 6. 10～ 6.17

<p>14日 (木)</p> <p>アモス 2章</p>	<p>「わたしはお前たちの中から預言者を、若者の中からナジル人を起こした。…しかし、お前たちはナジル人に酒を飲ませ、預言者に、預言するなと命じた」(11-12 節)。</p> <p>「ナジル人」は神に聖別された人。しかし私たちは都合の悪い言葉を聞きたくない。主よ、自分から見て「若者」の言葉に今日素直に聴く信仰を与えてください。</p>
<p>15日 (金)</p> <p>アモス 3章</p>	<p>「彼らは正しくふるまうことを知らないと主は言われる。彼は不法と乱暴を城郭に積み重ねている」(10 節)。「象牙の家は滅び、大邸宅も消えうせる」(15 節)。北イスラエル王国の圧政と贅沢な暮らしに対する主なる神の言葉は容赦ない。主なる神から与えられた力と富を「正しく用いる誠実さ」を求めて歩みたい。</p>
<p>16日 (土)</p> <p>アモス 4章</p>	<p>「イスラエルよ、お前は自分の神と出会う備えをせよ。見よ、神は山々を造り、風を創造し、…暗闇を変えてあげぼのとする」(12-13 節)。4 章には「しかし、お前たちはわたしに帰らなかった」という言葉が五回繰り返される。神はさまざまな“しるし”を通して語りたもう。新しい一日、「神と出会う備え」をさせてください。</p>
<p>17日 (日)</p> <p>アモス 5章</p>	<p>「正義を洪水のように、恵みの業を大河のように、尽きることなく流れさせよ」(24 節)。「わたし(主)を求めよ、そして、生きよ」。主が歌う悲しみの歌から、主の恵みに甘んじてしまうわたしたちの姿を示されます。洪水のように、大河のように、いつも新たにされる主の救いに立ち返る者とされて。</p>